

ほうりんほうじゅ  
宝林宝樹

(16)



私たちの心とは、とても弱く、繊細で傷つきやすく、壊れやすいものです。時には悲しみ、時には怒り、時には嘆き、時には喜び、時には笑う。一日のなかで何度も喜怒哀楽を繰り返すのが私たちの心ではないでしょうか。そのような私たちの心がいつも穏やかでいるために、常に心は平静であることをお釈迦さまは求めておられます。心が平静であればどんなところで何が起きようとも、心はくじけることがなく、心がへこむこともなく、負けることもない。

それゆえに、どこにいても心が穏やかでいられる。

それこそが幸福であると、お釈迦さまはお説きになっておられます。

しかし、常に心を平静に保つということは、なかなか容易なことではありません。お念仏を称えるとき、いつも私の心は安らぎのなかにあります。お念仏が私の心を照らして下さっているとき、私は平静を保つことができます。

もろく、弱く、壊れやすい心を支え、照らし、安心を与えてくださるお念仏と共にある私を喜び、感謝の日暮らしを送りたいものです。